



松ヶ崎だより

京都市左京区松ヶ崎堀町 40
TEL.075(781)3380／FAX.075(781)3252
<http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=108201>

家

学校評価特集号

令和元年 9月26日
京都市立松ヶ崎小学校
校長 北川 知世



課題の解決に向けた取組を

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。このアンケートは学校評価の一環として、子どもアンケートとともに実施しています。本号では、アンケートの結果と、結果をもとにした自己評価についてダイジェストでお伝えします。

＜アンケート調査の概要＞

対象	調査期間	対象数	集計数
子ども	7月 1日（月）～ 5日（金）	334名	330名 (98.8%)
保護者	6月21日（金）～28日（金）	334名	303名 (90.7%)

＜アンケート調査の特徴＞

- 協働的に問題解決していく力を育むうえで必要な、学習の基盤となるルールづくりや人間関係づくりの取組について問う項目を新設
- 松ヶ崎小学校として大切にしていく習慣として、「あいさつ」と「はきもの」に関する取組について問う項目を設定

＜アンケートをもとにした自己評価の流れについて＞

- 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成 という3つの視点で教職員にもアンケート調査を実施（7月）
- アンケート結果をもとに成果と課題を明らかにし、課題の解決に向けた取組を教職員で話し合うための研修会を実施（7月）
- 成果と課題、課題の解決に向けた取組をまとめた「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」を作成（8月）
- 自己評価の中身について、学校運営協議会に説明。学校運営協議会から、自己評価に対する意見と評価（9月4日）

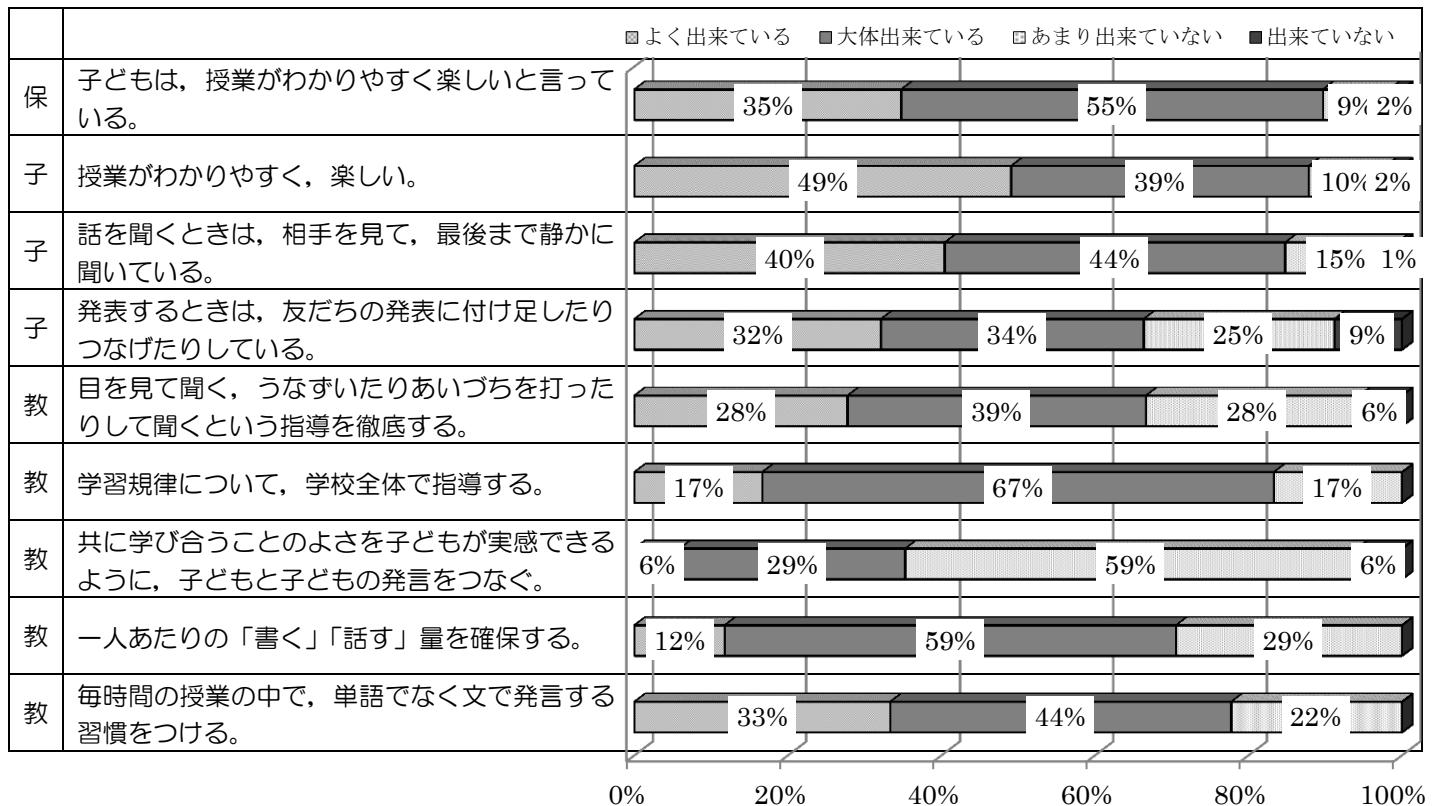
＜ダイジェスト版の見方＞

保護者・子ども・教職員アンケートの結果を、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成という3つの視点に分けて、グラフで示しています。また、アンケートから見えてきた成果と課題とあわせて、課題の解決に向けた取組も示しています。

なお、紙面の関係上、保護者や子どもアンケート結果のすべてをのせることができません。保護者アンケート、子どもアンケートの結果については、ホームページ上に公表する予定です。また、研修会を経て作成した「子ども・保護者・教職員アンケートをもとにした自己評価」についても、ホームページ上に公表予定です。

学校運営協議会からの評価は、本日配布のコミュニティ・ニュースに掲載します。

「確かな学力」の育成に向けて



<アンケートから見えてきた成果（○）と課題（●）　課題の解決に向けた取組（□）>

1. 学び合いの基盤となる学習規律

- 年度初めに学年主任会で話し合ってから各クラスでルールや持ち物について指導したので、クラスによる差が出なくてよかった。

2. 子ども同士の発言がつながる授業

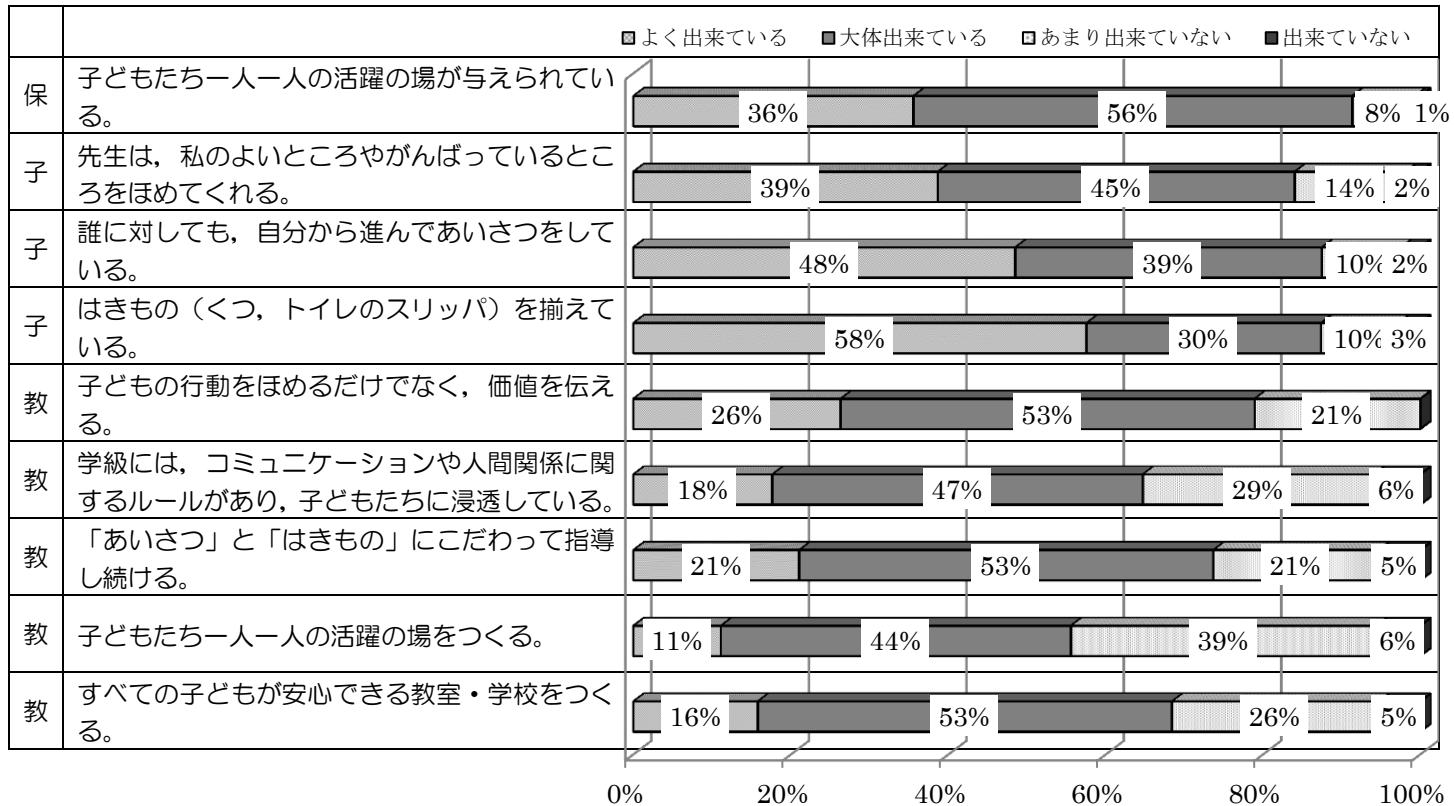
- 子どもも教職員も、授業中に「子ども同士の発言のつながりが弱い」と感じている。発問や子ども同士のつながりを工夫していく必要がある。授業改善にもっと取り組んでいく必要がある。
- 学年でも差があるだろうが、高学年ほど、自分がきちんとと考えられたり話し合いの中で認められたりするということが「楽しい」につながるのではないか。子ども同士の関係がよくないと発言もつながらない。

- 発言のつながる授業について、すぐれた授業実践を見て、目指す授業のイメージを明確にする。
⇒ すでに、9月の研修会で実施しました。
- 発言のつなぎ方を子どもが理解できるように、つなぐときの話型を指導し、子どもが授業の中で使いこなせるようにする。
⇒ 2学期に「話型の花」を子どもたちと一緒につくっていきます。
- 子どもたちの発言を引き出す、つなぐための役割を、教師がどれだけ果たしているかを意識して、教職員はお互いの授業を見合う。
⇒ 授業研修会や若手教員の勉強会で実施します。
- 授業の内容に応じて、座席の形を使い分け、子どもたちが協働的に学びやすい場づくりをする。
- 学級活動や遊びの中で、人間関係づくりを重視する。

3. 「わかる」「楽しい」授業

- 参観日などで、子どもたちの様子を見てもらっていることが、「わかりやすい授業」についての保護者の評価結果につながっているのではないか。
- 授業がわかりにくく感じている子どもたちに、支援ができているか。
- すべての子どもたちが「わかる」「楽しい」授業づくりを目指して授業改善に取り組む。

「豊かな心」の育成に向けて



＜アンケートから見えてきた成果（○）と課題（●）　課題の解決に向けた取組（□）＞

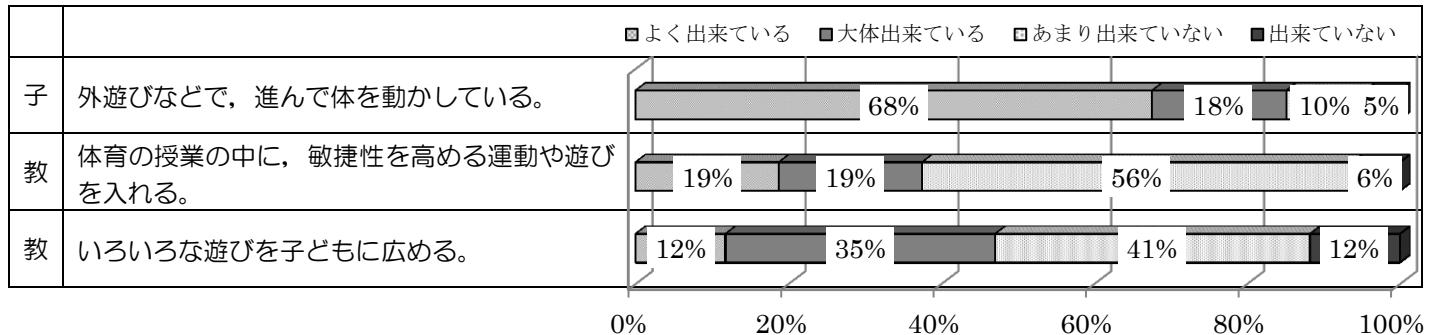
1. 「あいさつ」「はきもの」

- 学校全体で指導しているので、1学期末には、子どもたちが自分からあいさつしたりスリッパを揃えたりする姿が見られた。
- 「あいさつ」特に「はきもの」の指導に力を入れていることが、子どもたちにも伝わっている。
- 「あいさつ」「はきもの」について、子どもたちの評価と教職員の見立てとは差が大きい。
- 「はきもの」に対しての意識が、学校と家庭で大きく違う。
- 「はきもの」については、学校として目指す姿を、具体的に子どもたちに示す。また、なぜ、はきものを揃えるのか、そのためにどうするのかということを子ども自身が考えらえるようにする。
⇒ 9月の第1週に、各クラスで授業をしました。また、そのときの子どもたちの様子について、学級通信で紹介しているクラスもあります。
- 学校では、何のために、どのような取組をしているのか、どのような子どもの姿を目指しているのかを、学校だよりやホームページ、学級通信などを活用して家庭にも伝えていく。
⇒ 9月の学校だよりで「はきもの」を取り上げたのには、このような意図があります。

2. 子どもの行動への価値づけ

- 教職員は子どもをほめていても、子どもには、「ほめてもらった」「認めてもらった」という実感がない。
- 子ども自身が「認められた」と感じるほめ方、タイミングで伝えないと子どもには届かない。
- ほめるだけでなく、なぜそれがよかったのかを具体的に伝える。
- のぞましい姿やがんばっている姿を、他の子どもたちにも紹介し、学校として目指す姿を子どもたちと共有する。

「健やかな体」の育成に向けて



<アンケートから見えてきた成果（○）と課題（●）>

- 外遊びをする子どもは多いが、遊びのバリエーションが少ない。
- 「敏捷性」を高める運動や遊びを、体育の授業の中にとりいれられていない。
- 教師が遊びを紹介したり、教職員同士で「こんな遊びが盛り上がるよ」という情報交換を行ったりして、教師自身が遊びの引出しをたくさんもつようとする。

自由記述から

ご多用の中、自由記述欄にもご意見をいただき、本当にありがとうございました。いくつか、紹介します。

教職員について

匾休みに笑顔で子どもたちと遊んでいること、作文や文字の指導を丁寧にしていること、子どもが憧れを抱くような存在であることなどについて、感謝のメッセージをいただきました。また、担任だけでなく他の教職員も含めて、話がしやすく相談しやすいということについて、保護者としてありがたいという声もありました。

交換授業や専科について

担任以外が、教科を教えることについて、一人一人の子どもに対して複数の教職員が関わることで、友だち同士のトラブルが起こった際も幅広い視野で対応できてよいのではないか、という声がありました。

地域との連携について

松ヶ崎ならでは体験ができるように、カリキュラムが考えられていることなど、地域との連携について評価する声とともに、さらに期待したいという声もありました。

学校行事について

「学校、PTA、学童を含めると、ほぼ毎週のように行事があり数が多くて大変」という声も「参観や懇談を楽しみにしている」という声もありました。また、「力試しの会がなくなって残念」という声もありました。

配布物について

「量が多く、目を通すのが大変」「紙媒体以外の手段も含め、効率的な伝達手段を検討していただきたい」という声がありました。

安全について

「立地的に土砂災害が心配」という声や、「避難訓練で工織大まで行ったと、お便りで見て、子ども達に決められた避難場所への意識付けがされていて、とても良い訓練だと思う。合わせて最近頻発している豪雨や地震など、身の守り方についても取り組んでいただければ」という声をいただきました。

学校の取組について

「学校で一番力を入れていることについて、もっと児童を巻き込んだ形で取組を行い、家庭にも働きかけがあるとよい」という声をいただきました。

ご意見ありがとうございます。紹介できなかったご意見も含めて、お答えできるものについては、個人懇談の場などでもお伝えしました。

教育現場も変革のときをむかえています。これから変わっていくことも出てきます。大切なことは、「そのことによって子どもがよりよく成長していく」ということだと考えています。その視点を忘れずに、今後も、教育活動の改善を図っていきます。引き続き、ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。